

〔漢-15〕 当用漢字音訓表についての
日本文芸家協会員の意見

日本文芸家協会国語調査委員会が、昭和37年10月に行なった意見調査の結果をまとめて、昭和38年6月に、国語審議会あてに提出した要望書の要約。

〔上記調査の質問事項〕 ①当用漢字音訓表は必要なりや否や。②当用漢字音訓表はどのような点で改訂を必要とするか、具体的に例をあげて示されたし。

〔①に対する解答の集計〕 当用漢字音訓表におおむね賛成 (4) 条件付賛成 (17)
当用漢字音訓表に反対 (7) 条件付反対 (7)

〔②に対する解答——44人の意見の分類〕 *かっこ内は人数を示す。

1 全体的な問題点について

- ア 読み方の制限はやめるべきである。(1)
- イ 読み方の制限は、元来強制すべきものではない。(1)
- ウ 慣習を捨てすぎている点改訂を要する。(1)
- エ 音訓の種々相にかんがみ、基準に弾力をもたせよ。(1)
- オ 音訓表の廃止が不可能なら、熟語に必要な音訓を再検討せよ。(2)
- カ 口語体の中の文語的表現に用いる音訓も考慮せよ。(1)
- キ 1語で、異なる読み方をするもので、(甲) 送りがなによって識別できないもの、(乙) 送りがなによって識別できるものを挙例して、問題の所在を示すことが先決である。(2)

(甲)の例——敵 かたぎ てぎ 開く あく ひらく (乙)の例——温 あたたかい ぬくい 干物 ひもの ほしもの

- ク 音訓表は教育漢字にだけ適用せよ。(キの研究に基づき新しく作製する。)(1)
- 2 個別的な問題点について

- ケ 音訓の選び方にむらがある。(1) 陵に「みささぎ」があり、陸に「おか」がない。
- コ 普通に知られ、用いられている訓がない。(6)
孔 あな、刃 やいば、兄 にい、姉 ねえ、父 とう、母 かあ、止 やめる、生 はえる、裁 さばく、欲 ほしい
- サ 音だけあって訓がない。(4)
以 もつて、恭 うやうやしく、径 みち、研 とぐ、硬 かたい、唆 そそのかす
- シ 「名詞形をあげたものは、動詞には使えない。」のような不可解な制限がある。(1)
務 つとめる 謡 うたう
- ス 動詞の異訓で語幹が同じであるのに認められない。(3)
縮 ちぢむ ×ちぢれる、潤 うるおう ×うるむ
- セ 同訓異字の整理で意味の区別ができない。(4)
あし ○足、×脚、きく ○聞、×聴、みる ○見、×視、めぐる ○巡、×回、
×周、×旋、ふるい ○古、×旧。また、「要る」をかなで書くと、「居る」とま

ぎらわしい。

ソ よく用いられる熟字訓が認められていない。(6)

田舎, 五月雨, 時雨, 角力, 雪崩, 所以, 伯父, 叔母, 従兄, 従弟

タ 普通に用いられる熟語に使う音訓が認められていない。(2)

景色, 建立, 合戦, 山際, 財布, 掃除, 笑顔, 善し悪し, 喫茶, 弟子, 乳房
浜辺, 由緒 (かな書き・まぜ書きに対して, 読みにくい, 習慣無視である, な
どの反対意見もある。)

3 当用漢字表の「使用上の注意事項」と関連する問題点について

チ 代名詞や副詞などを, むやみにかな書きにする必要はない。(3)

ソ 動植物の名称を, 必ずしもかな書きにしなくてよい。(3)

テ ~のとおり, ~という, ~ていくなどに漢字を使いたい。(1)

4 当用漢字表, 現代かなづかいなどについて

ト 新聞はまぜ書きをしないで, ルビを使用せよ。(かっこで, 読み方を示すのは
不自然。)(1)

ナ 漢字の数を 3,000字ぐらいにふやしたい。(1)

ニ 当用漢字は廃止すべし。(1)

ヌ 常識的な熟語に用いる字が, はなはだしく除かれている。(かな書き・まぜ書き・
言いかえに反対。)(4)

[×]酋長, [×]雲雀, [×]元旦, [×]妄想, [×]明晰, [×]汨濫, [×]洗濯, [×]僧侶, [×]名妓, [×]愛妾

ネ かな文は意味がとりにくく, 漢字の熟語や術語の処置に至っては, 日本語の性
格を根本的に改造するほかない。(1)

ノ ヴァ, ヴィによるVの表記を尊重せよ。(1)

ハ 「じ」と「ぢ」, 「ず」と「づ」の矛盾・混乱が多い。(1)

ヒ 「じ」と「ぢ」, 「ず」と「づ」の区別を廃止せよ。(1)

(注) 語例は, すべて解答の中から選んだ。